



格言：思い通りのプレーを 目指すのは「負け筋」である

幼児性を破棄し、逆境を「なお立つ強さ」に変えるマインドセット

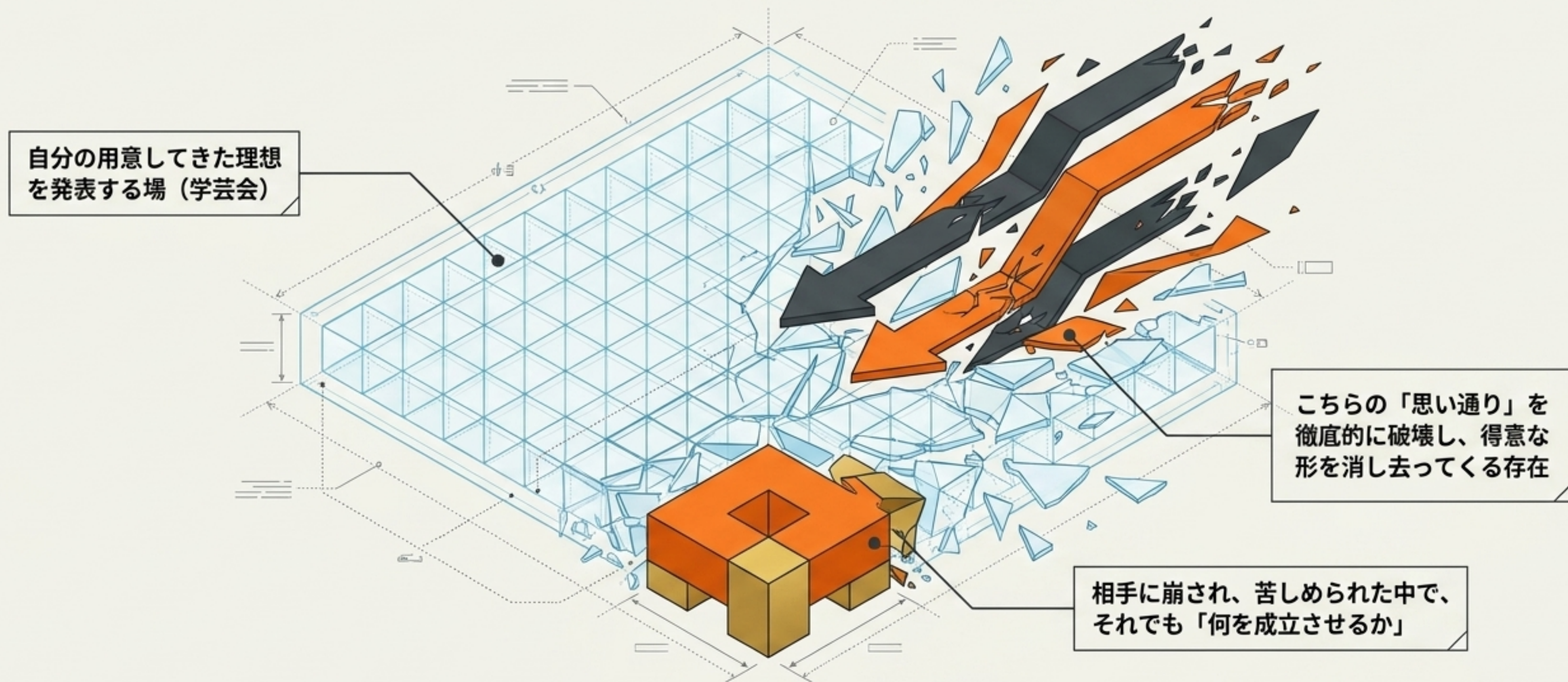
耳ざわりの良い「自分らしさ」

「自分のプレーをしよう」「自分らしく戦おう」
「練習通りにやればいい」——一見ポジティブな
励ましに聞こえるこれらの言葉には、恐ろしい
甘えと逃避の罠が隠されている。

理想への固執は「強敵の拒否」

「思い通りにやりたい」と願い続けること
は、自分の気持ちよさを奪ってくる真に強い
相手との対戦を、無意識のうちに拒絶して
いることと同義である。

勝負の舞台は「学芸会」ではない



足元をすくわれそうになった時にこそ、その人間の真価が露わになる。

不機嫌の解剖学：露呈する「幼児性」

一時的な感情の乱れ・メンタルの弱さ（ため息をつく、声を失う、拗ねる、過度に落ち込む）

極めて根深い「幼児性」
（無意識に負のエネルギーを使って周囲の空間をコントロールしようとする傲慢さ）

世界に対する「抱っこ要求」



不機嫌な態度は、戦う者の態度ではない。
「私を抱っこして、機嫌を取ってくれ」と
要求している赤ん坊と同じ状態である。



拗ねることで相手に気を遣わせる



落ち込むことで責任の追及から逃れる



自らの感情処理を他者に強制する

見えない代償：「脳機能の奪い合い」

成熟したチームの脳機能



A

幼児性を抱えたチームの脳機能



B

不機嫌な存在は「扱いづらい人」で済まされる問題ではない。共に戦う仲間の空間全体の生産性と「脳機能」を著しく奪い去る、最悪の自滅行為である。相手の顔色を窺うことにエネルギーを消費させられているチームが、目の前の強敵に勝てるはずがない。

真のパートナーシップを見極める基準

	最悪のパートナー	最高のパートナー
順調な時	優しく、笑い合える（違いはない）	優しく、笑い合える（違いはない）
思い通りに いかない時	不機嫌で周囲を殴る、 黙り込んで気を遣わせる	現実を直視し、感情の波に溺れない
コア・ アクション	仲間の脳機能を奪う	お互いの脳機能を合流させ、 「で、ここからどうする？」と 即座に問いかける

逆境の教材化：思い通りにいかない世界の歩き方

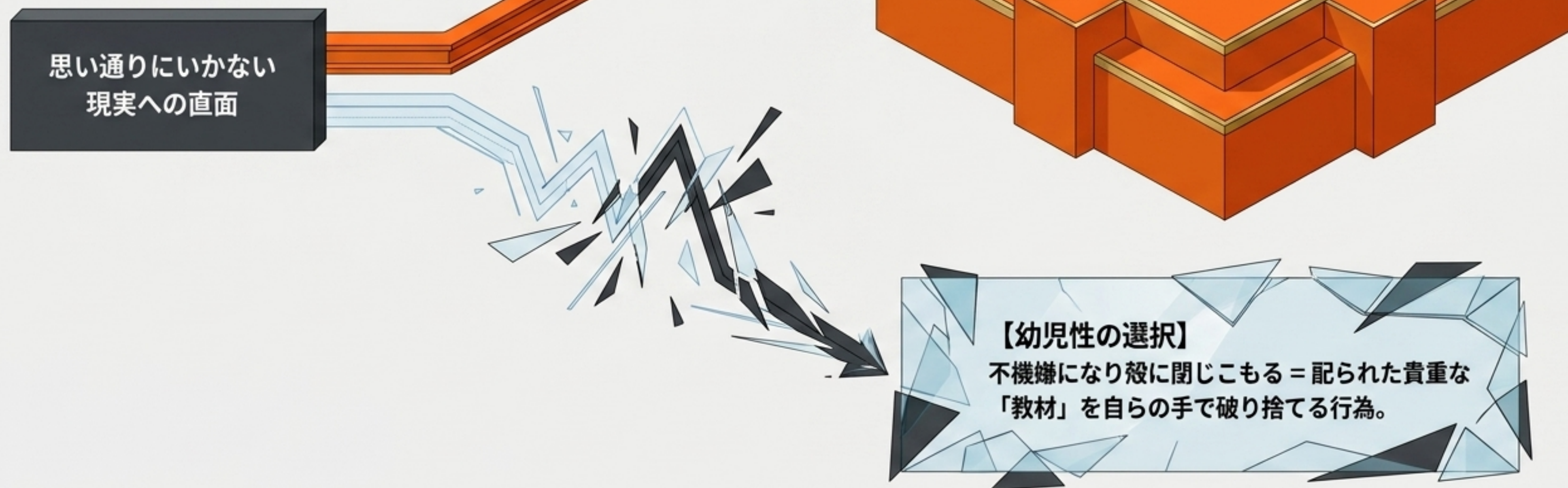


想定外の展開、連続するミス、噛み合わない連携。これらは決してあなたを不幸にする敵ではない。

【無二の教材】

あなたの現在の弱点、崩れ方、逃げ方の癖を冷酷なまでに正確に教えてくれる、最高のテキスト。

認知の分岐点： ミスが起きたその瞬間



本質を射抜く究極の格言

「思い通りにいかないから、
崩れるのではない。思い通りに
いかない時に、未熟さが露呈し
ているだけである。」

現実の不機嫌をぶつけるな、
それを己を更新する教材に変えよ。

自己変革：幼児性の罠から脱却するセルフチェック



ミスや想定外の事態が起きた時、無意識にため息をついたり、態度で不満を表して周囲に気を遣わせていないか？



「自分らしい納得のいく形」にこだわるあまり、相手が仕掛けてくる厳しい現実への対応を放棄していないか？



困難に直面した瞬間、パートナーの脳機能を奪う存在になっているか、それとも「ここからどうする？」と合流できているか？

冷たい現実と、熱き信頼

「自分らしく輝こう」という心地よい言葉で、
環境や相手に機嫌を管理させる偽りの日々はここで終わる。



自分の足で冷たい現実立つこと。そして仲間と脳機能を合流させ、
未熟な自分を一つずつ書き換えていくこと。
これこそが、私たちが目指すべき真の成熟であり、本当の勝負の入り口。

